Yamakado News Letter

山門水源の森を
次の世代に引き継ぐ会

林床整備の休憩時にギンリョウソウを観察する西浅井中３年生

植物観察をする永原小５年生

チップを運搬する前原中の生徒

塩津小ひびきあい活動

土のうを作る青山中生徒

・夜の講和では講師を質問責めに

宿泊研修で来訪 西浅井中一年生

沢山の小・中学生が来訪し、森林の中で体験や学習を深めました

5月24日（木）、永原小全校学習で107名が午前午後に分かれて来訪。引き継ぐ会の会員が森の中を案内し、各学年毎の学習目標に沿って学びを深めました。

5月31日（木）、千葉県船橋市立前原中学校の生徒が民泊研修で西浅井町内で宿泊しましたが、その受け入れ先の３軒の方から、生徒達に山門水源の森を案内してほしいとの依頼があり、合計12名の生徒に森を案内しました。

6月2日（土）、塩津小学校のひびきあい活動で児童12名とその保護者が来訪。引き継ぐ会会員の保全解説を交えたガイドで、親子が森の中を散策しました。

6月5日（火）、西浅井中三年生19名が来訪。ワクドキの森で林床整備をしてくれました。生徒の中には小学校時代から学校行事や自由研究で10回以上来た人もいますが、学校行事としてはこれが最後の活動となりました。

6月7日（木）、岐阜市立青山中学校一年生が環境学習の一環で来訪。2011年から続くこの事業ですが、今年は148名が参加。３班に別れて林床整備、獣害防止テープ巻き、湿原保全のための土のう作りをしてくれました。作業に先立ち、引き継ぐ会スタッフが8名が湿原を中心にこの森を案内しました。来訪日の前日はちょうど雨が降ったことからモリアオガエルの真新しい卵塊が見られ、またハッチョウトンボや満開の時期を迎えたササユリやコアジサイなどを観察しました。

6月15日（金）、地元の西浅井中学校では例年6月に一年生の宿泊研修でこの森にやって来ます。今年は23名が来訪。知識としては色々なことを学んでいる彼らですが、意外と実物と付き合わせて学ぶ機会は少ないようです。被子植物、裸子植物、シダ植物、コケ植物等、実物を確認しながら植物を学びました。

長年のササユリ保全　その効果が現れた2018年

湿原沿いには約200株のササユリが開花

複数花をつけた株も増えてきた

この森でササユリの金網による保全作業を始めたのは2008年からです。県有林化されて以降、当時は藪に埋もれていた観察道などを、安全の観点から草刈りを行って来ました。沢山のボランティア協力を得ながら行ってきた作業ですが、草を刈って林床が明るくなると、それまで殆ど見られることのなかったササユリが復活しました。このことから、人が手を入れた森に咲くササユリを、里山の象徴として保全していこうという機運が高まりました。そんな矢先の2007年、楽しみにしていたササユリが開花前に半数を食われてしまう被害が発生しました。そうしたことから、金網による保全作業（防獣対策）をすることになったわけです。

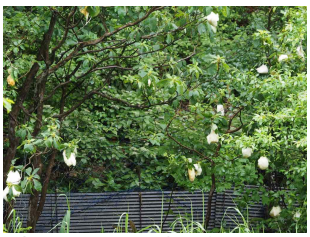
当初は予算も人手も今以上に限られた中での作業でしたので、一株囲う金網に600円ほどがかかる費用をなんとか工面して防獣対策をする、といった状態でした。しかしながら、金網では獣害からは守れても、暴風時に無理な力がかかって茎折れや蕾や蒴果が取れてしまうなどの問題もありました。10株以上がまとまって生えている場所では防獣ネットで囲う方法に切り替え、順次その範囲を拡大。また防獣対策に加え2014年より個体数管理の取り組みも開始し、年々頭数密度も減少傾向にあります。今年はその両方の効果が目に見えて現れてきたと実感できる、そんな年になりました。

今月の森の様子

今年はモリアオガエルの産卵時期と雨が降るタイミングがうまく合ったようで、湿原周辺ではたくさんの卵塊が付きました。データを取っているわけではないので単なる印象ですが、1日の雨量が同じでも短時間に激しく降るときは産卵活動は少ないようです。

満開のコアジサイ 6/5

卵塊を観察する会員 6/9


南部湿原は過密状態 6/12

考えてみれば、雨が激しいと固まる前に卵塊が流れてしまうので、カエルもその辺はしっかり判断しているのでしょうか。